

愛と美と夢。

この想いを受け継ぎ、YUMI KATSURAは「100年ブランド」へ。





Timeless Beauty

受け継がれる美意識

夢見る心に、そっと寄り添うドレス。
のびやかな美しさが、未来へと希望を運ぶ。
時代を超え、磨き続けた YUMI KATSURA の美意識。
革新、伝統、普遍性、エレガンス——
その哲学が唯一無二の輝きとなる。

Timeless Beauty



Innovation 革新

伝統のなかに、未来を見つける。

ヨーロッパ発祥のウェディングドレスという伝統に、
「メイド・イン・ジャパン」という新たな価値を。

丹念な縫製、刺繍、独自の加工技術——。

日本の繊細な手仕事の世界の花嫁を魅了する。

Heritage 伝統

継いで、守って、磨いていく。

日本の美と伝統技術を次の時代へ、そして世界へ。

和紙、西陣織、友禅、和装の美しさ……、

職人とともにその灯を未来につなぐ。

Universality 普遍性

変わる時代のなかで、変わらない美しさがある。

年齢、国籍、文化、信仰——、

境界を越えて響きあう、無限の可能性。

YUMI KATSURA が目指す普遍性は、いつでも誰のそばにも。



Elegance エレガンス

花嫁をしなやかに包む、究極の曲線美。

たとえば、意志あるエレガンスを象徴する「ユミライン」。

ドレスがまとうオーラ、優雅な立ち姿、歩くたびに生まれる余韻。

YUMI KATSURA がたどり着いた、比類なきシルエット。



Life-Couture

「ライフクチュール」宣言

日常と祝祭をつなぐ、新しいコンセプト

人生の「ハレの日」は、結婚式だけじゃない。

日常にちりばめられた、小さなハレの日。

自分だけの記念日もいつものカフェも、装い次第でもっと特別になる。

日常を彩るそんな「祝祭体験」を、

YUMI KATSURAは、ライフクチュール（人生を仕立てる）と提案。

暮らしと特別な瞬間、その境界線をもっとやわらかく。

どんな瞬間も、あなた自身が主役になれるように。



今日を「ハレの日」に変える、
自由のドレスコード。

おめかしにルールなんていない。
装うたび、今日という日が
少しだけ特別になる。
自分だけのスタイルが生まれていく。
“Life-Couture” が息づく、新しい日常へ。



自由な私を、着る。



日常を彩るエレガンスブランド

ykF [エフ]



Fは、Freedom (自由)のF。「もっと気軽に、自分らしいフォーマルを着たい」という声から生まれた、日常のエレガンスウェアブランド。YUMI KATSURAのドレスメイキングを受け継ぎ、シンプルなのに印象的。上質な日本製で着心地もお墨付き。着回し自在でケアもらくちん。だから、どんな日も「私が主役」になれる。それが、エフ (ykF)。



Life-Couture

Crafted by Hands

手仕事が生む、未来へのバトン

デザインから縫製、仕上げまで本社スタジオで手がけるYUMI KATSURAのドレス。
創業者と切磋琢磨しながら、独自のセンスと技術を育んできたクリエイティブチームの3人。
情熱、誇り、職人魂——。そのすべてが未来へ続くバトンとなる。



積み重ねてきた
技と遊び心。
ブランドの「今」を楽しむ。

藤原綾子 アクセサリーデザイナー

常にチャレンジャーであり、「人を
わっと驚かせ、笑顔にしたい」という
桂の想い。それを受け継ぎ、これか
ら変化を面白がる気持ちを忘れ
ず、新しいことに挑戦していきたい。

30年以上に渡り
ともに歩んできた3人。
ブランドの「これから」を静かに、
力強く支えていく。



時代の空気をまといながら、
花嫁の「なりたい」に寄り添って。

飯野恵子 ドレスデザイナー

伝統や技術はしっかり守りつつ、花
嫁がときめく新しさも忘れない。等身
大の願いをカタチにするのが私の役
目。日常服ブランド「エフ」でも、毎日
がちょっと楽しくなる服を届けたい。



手仕事の温もりと緊張感を大切に
この手が生み出す、祈りに似た一着。

森永幸徳 ドレスデザイナー

どんな時も一着入魂。手仕事の緊張
感、完成した瞬間の達成感はこの仕
事を始めた頃から変わらない。ここ
で生まれるドレスが誰かの人生の記憶
になる。そんな想いを込めて。

YUMI KATSURAの
美は、指先に宿る。
それは技術であり、
継承であり、
想いである。





新しい文化を
日本に広めたかったの。
誰もやらないから私がやる。
それだけの話よ。

Revolution

桂 由美という革新——常に“初めて”を創ってきた人

1960年代、日本にはなかったウェディングドレスを着る文化。

初めて持ち込んだのがYUMI KATSURAの創業者、桂 由美。

日本初のブライダル専門店、初のブライダルショー、

世界に広げた“和と洋”の美意識。

その挑戦は、今もブランドに受け継がれている。

桂 由美 [1930-2024] 東京生まれ。共立女子大学卒業後フランスへ留学し、デザインやクチュール技術を学ぶ。1965年、日本初のブライダルファッションデザイナーとして活動を開始。世界の第一線で活躍し、「ブライダルマザー」「ブライダルの伝道師」と称される。



1965年、港区赤坂に「桂由美ブライダルサロン」をオープン。当時、日本ではまだ誰も使っていなかった「ブライダル(Bridal)」という新語をサロン名に冠し、新しい文化を広めた。「花嫁の夢に寄り添う」その姿勢は、どんなに有名になっても変わらず、晩年も週に一度は店頭に立ち、花嫁と直接向き合い続けた。



花嫁は祭壇の飾りじゃない。
結婚式はもっと楽しく自由で、
百人百様でいいのよ。

1972年に発表していたジャンプスー
ツ型のドレス。ヨーロッパの伝統を遊び
心で塗り替える「花嫁革命」の象徴。



どちらもフォークロアをテーマに作
られたドレス（1971年）。初期から
男女ベアコーデや、ブライズメイド
のドレス、子どもの衣装まで新しい
祝祭スタイルを提案していた。



常識なんて誰かが決めたもの。
花嫁も花婿も主役になれる
時代をつくりたかっただけ。

数字で見る桂由美

時代を変えた桂由美伝説は、数字でも
桁外れ。世界中の舞台で喝采を浴びた
ショーや、日本の伝統を現代に甦らせた
ドレスの数々。これだけの数字を成し
遂げたウェディングデザイナーは、世界
でも桂由美ただ一人。

- ショー開催数：国内通算**90**回
 - ショー開催国数：海外**21**カ国以上（通算**113**回）
 - ドレスを着た花嫁の数：約**80**万人（1965-2024年）
 - 出版実績数：累計**40**冊以上
 - 受賞歴：国内外で**20**回以上
- *数字と実績／ブランド資料より

結婚する人が減るのは
やっぱ悲しいじゃない。
でも、あきらめちゃだめ。
まだできることは山ほどある。
未来は変えられるのよ。



1999年、大舞台で喝采を浴びたローマオートクチュールコレクション。東洋人では初めての参加だった。

「世界は遠い」なんて
思わなかった。
日本発の新しい美しさを
世界へ送り出したい
一心だったの。

世界が賞賛する和の力

パリ、ローマ、NY… 欧米の主要都市はもちろん、ドバイ、モナコなど意外な国々もショーの舞台となった。中国では圧倒的な人気を誇り、数えきれないほどのショーを重ねてきた。
そして“和”の革新—。西陣織や博多織、手描き友禅、墨絵、竹細工、金箔、水引、帯、オリガミ、和紙、絞り、辻が花、切り絵、ちりめん細工、和傘…日本の伝統工芸をモードに昇華し、ドレスとして世界へ発信。職人たちの「灯」を守り、世界に誇る。パリコレでも、その本物は絶賛された。



葛飾北斎の作品をモチーフに30点を発表した2018年初夏のパリコレ。これが通算19回目。

幸せの場を広げる行動力

少子化が進む時代、「結婚するカップルを1組でも増やしたい」の一心で、日本中に“祝う場”を作り続けてきた桂由美。どうすれば結婚に憧れる若い世代が増えるのかを考え抜き、「恋人の聖地プロジェクト(*1)」や「プロポーズの日」制定、災害時の市民結婚式など、さまざまな“祝う場”を全国に仕掛けてきた。こうした取り組みは他の社会活動とともに高く評価され、数々の賞を受賞(*2)している。

(*1) 恋人の聖地プロジェクト:2006年発足。“プロポーズにふさわしい場所”として全国200カ所以上(2024年時点)を認定。プロポーズの日(6月第1日曜)も制定し、各地で記念イベントが行われている。(*2)主な受賞歴:文化庁長官表彰/港区名誉区民/外務大臣表彰/奮闘功労者最高賞「恩賜賞」ほか

Legacy & Future

歩んできた道、その先へ

一人の情熱が時代を動かし、数えきれない

花嫁の夢を叶えてきた。

YUMI KATSURA が歩んだ軌跡と

これから描く未来を、ここに。

「日本初」を次々と生み出した YUMI KATSURA の初期

1965

日本初のブライダル専門店オープン
日本初のブライダルショー開催



東京・赤坂の一ツ木通りに誕生した「桂由美ブライダルサロン」。



「7つの個性をデザインする」をテーマに、モデルには7人の有名女優を起用。

1967

第3回 Grand Collection で
オリジナルウェディングを提案



ワンパターンな当時の結婚式に対し、オリジナルウェディングの重要性をアピール。トレンペアラの子もたちを従えて花嫁が歩く姿は、日本ではまだ誰も見たことがなかった。

1968

日本初のブライダル専門誌を出版



参考書が皆無だった時代につくられた『ブライダルブック』（桂由美著／文化出版局）。ブライダル文化の普及と情報発信の扉を開いた。

1969

『全日本ブライダル協会』設立

1975

日本で初めてウェディングドレスの
プレタクチュール（既製服化）を実現



「OLの1ヶ月のサラリーで買えるウェディングドレス」を目標にした販売をスタート。写真は今年の第10回 Grand Collection。ミュージカル仕立ての斬新なステージ。

1975

「桂由美ブライダルハウス」を
東京・乃木坂に拡張オープン



現在の東京本店が入るロココ調の建物が誕生。ウェディングドレス、カラードレス、和装、親族衣装、ゲストドレス、メンズや子供のフォーマル、アクセサリーまで揃うブライダル専門店は日本初。

e p i s o d e



1978年、ピーエール・バルマン氏が桂由美ブライダルハウスを訪問。「日々ウェディングドレスに囲まれているあなたがうらやましい」という言葉をきっかけに、ブランドの使命感がさらに強まることに。



1979年、東京プリンスホテルで開催された第15回 Grand Collection。プライズメイド、アッシャー、フラワーガール、リングベアラを伴う「ウェディングパーティ」を演出し、ステージ上で初披露。

ドレス、メンズ、和装…
すべてを刷新した
80年代の衝撃



1981

アメリカへデビュー、
「ユミライン」が誕生

ニューヨークにて、アメリカ市場へ向けたイベントに参加し、ショーを開催。そこで披露した独自のシルエットが大好評。桂由美の名から「ユミライン」と称される。一般的なマーメイドラインは、膝下から広がる尾びれのようなシルエットだが、ユミラインは上半身から膝までは体にフィットさせ、膝上から裾にかけて、なだらかに優雅に広がるのが特徴。着物の「お引きずり」スタイルから着想を得たものだった。



裾を引きずるように着物を着付けるスタイル「お引きずり」がユミラインのヒントに。

1983

「YUMI KATSURA ムッシュ」を発表



第19回 Grand Collectionにて発表したメンズフォーマル、ペアコーディネートで「花嫁だけでなく二人が主役」という新風を。

メンズフォーマルはその後も進化



時代に合わせて独自の進化を遂げ、年1回のGrand Collectionでも毎回ショーを盛り上げる名シーンに。2006年、第60回 Grand Collection in Tokyoより。

Legacy & Future

1984

総額3億円の
ウェディングドレスを披露

第20回 Grand Collection「LOVE FLASH」の中で、博多織オリジナルプロケード30mを使い、本パールを刺繍した12mのロングトレーンのウェディングドレスを披露。総額は約3億円。

1984

「新和装」を発表、
婚礼和装の改革開始

婚礼衣装の「和洋の両立」を目指し、この年から和装の改革に着手。写真は2006年、第60回 Grand Collection in Tokyo。



伝統に新しい美を重ねて

80年代から洋髪による和装ヘアの提案、着付け時間の短縮となるツーピース式の着物など、次々に新しい和装を開発。特に1990年代には、ドレス素材のオーガンジーを取り入れた新和装、また男女の和装ペアコーディネートを発表して人気に。



1985

NYショーに
ブルック・シールズ出演



ニューヨークでのショーに、当時人気だった女優ブルック・シールズをゲストとして起用。YUMI KATSURAのウェディングドレス姿を披露し、現地メディアに大々的に取り上げられる。

1986

映画「ナイルの宝石」
にドレスが登場



「ナイルの宝石」(原題:The Jewel of the Nile) (20世紀フォックス)にて、主人公キャスリーン・ターナーがYUMI KATSURAのドレスを2着着用。

世界を舞台に、広がる YUMI KATSURAの鼓動

1986

中国初のブライダルショー開催

中国人民対外友好協会の招きで、中国国内で初めてのブライダルショーを開催。以降、現在に至るまでYUMI KATSURAのドレスは中国でも憧れブランドに。

1987

パリで初のコレクション開催



フランス・パリでのショーはLe Grand Hôtelにて。この年は、中国・北京に中国初の婚礼衣装店「桂由美婚礼服飾公司」をオープン。韓国・ソウルでは日本人デザイナーとして初めてのコレクションを開催。

1988

全国70都市にフランチャイズ店を展開

1991

ヨーロッパエクセレンス協会より
「トライアンフ大賞」(服飾部門)受賞



ヨーロッパ文化の国際的推進者に贈られるグローバルな賞だった。

e p i s o d e



1987年、パリのメディアからショーに関する多くの賛辞を受ける中、作家フランソワーズ・サガンから直接自筆の手紙が届く。「モードにこれほどにも大胆かつ自由奔放なタッチで我々のロマンティックな夢を表現し得る人は桂由美において他にはいない」と賛賞。

1996年、元オリンピックの体操選手、ナディア・コマネチのウェディングドレスをデザイン。元々彼女はYUMI KATSURAのファンで、実際に乃木坂のブライダルハウスに来店してドレスを制作。



Legacy & Future

1992

スペインで初のコレクション開催

スペイン・バルセロナのベドラルベス宮殿にてショーを開催。バルセロナ衣装博物館に博多織のドレス1点を寄贈。



1993

ローマ法皇へ祭服を献上

第264代ローマ教皇、ヨハネ・パウロ二世の祭服をデザインして献上。同年、法王が復活祭で着用。



日本の博多織の素晴らしさを世界にアピールしたいと考え、約1年半かけてローマ法王の祭服を制作。復活祭で着用した姿は全世界で放送された。

1995

「アジアブライダルサミット」初開催



アジア各国の婚礼文化や婚礼衣装を大切に育み、後世に伝えるため「アジアブライダルサミット」を主宰。開催地の東京に、中国、韓国、インド、タイ、インドネシアなど6か国が集結。

1997

ウィーン少年合唱団と
ショーで初共演



コレクションのゲストとしてウィーン少年合唱団が登場。ブライダルショーとのコラボレーションは初の試みで「さくらさくら」などを披露。

進化は止まらない、 広がる夢と挑戦の21世紀



YUMI KATSURA といえばシンボルはバラ。バラをモチーフにしたドレスのなかでも、全身で大輪のバラを表現したデザインは特にロングセラーに。

1999

ローマ オートクチュール コレクションへ初参加

東洋人として初めて、イタリアファッション協会オートクチュール部門の正会員となり、ローマのコレクションへ参加。



1998

桂由美の名を称した花嫁のバラ「ローズ・ユミ」誕生

新種の白バラが京成バラ園芸から誕生し、桂由美にちなんで「ローズユミ」と命名。これを記念し、12本のバラのブーケをメインとした結婚式「ダズンローズウェディング」を提唱。



2001

スペイン広場で春夏ローマ オートクチュールコレクションのフィナーレを飾る

ローマオートクチュールコレクション最大のイベント、スペイン広場でのファッションショー「Donna Sotto Le Stelle」のラストステージを飾る。

2003

パリコレ初参加、和紙など日本独自の素材で注目

「JAPAN VIEW」をテーマに海の世界を和紙で表現した「WASHI-MODE」ドレスを初披露。シルクにも勝るとも劣らない「和紙を超えた和紙」の作品の数々。



2005

YUMI KATSURA PARIS店オープン

パリ・カンボン通り、シャネル本店の正面に開店した「YUMI KATSURA」。



2008

映画「幸せになるための27のドレス」に、YUMI KATSURAのドレス2着が採用

2009

世界初！ロボットをモデルとしてランウェイを歩かせる

2011

ニューヨークで展示会とショーを行い、アメリカ再デビュー

2012

アコヤ真珠13,262個を刺繍したドレスがギネスブック認定



2011年にライセンス契約した「Impression Bridal」を通じて全米・カナダで20店舗と契約。ニューヨークで発表された「YUMI BARA」と名付けられた人気ドレス。

創業者の想いをつなぎ、 100年続くブランドへ



2018年、第84回 Grand Collection in Tokyo「BEYOND EAST&WEST～日本の伝統工芸技術の革新と創造を世界へ～」会場となった迎賓館赤坂離宮で、ファッションイベントが行われたのは史上初。

2014

創業者・桂 由美のドキュメンタリー映画
「マザー オブ ザ ブライド」上映

2016

舞台「桂由美物語」上演

創作活動50周年記念として、日本橋三井ホールにて上演。桂由美役は森口博子。



2018

迎賓館赤坂離宮で
初のコレクションショー開催

2020

創作活動55周年記念
第88回 Grand Collectionを開催

2022

YUMI KATSURA MUSEUM オープン

日本初のブライダルファッションミュージアムが福井県若狭町に開設。1960年代～現在までのアーカイブドレスや希少価値のあるドレスなど60点余りを常設展示。



episode

復興祈念として市民結婚式のプレゼント

大震災の際、結婚式ができなかった被災カップルへ贈ったのが、無償の「市民結婚式」。桂由美自身が司式者となり挙式を行うスタイル。その想いから生まれた「ふるさとウェディング」はその後も被災地だけでなく全国各地へと拡散。

●主な復興祈念市民結婚式
1995年 阪神淡路大震災後、15組へ
2005年 新潟中越地震後、11組へ
2011年 東日本大震災後、被災地5カ所4県にて
2016年 熊本地震復興10組へ



2011年、被災地の岩手県釜石市で行われた復興祈念の市民結婚式。

2024

2月 桂 由美の半生を描いたテレビドラマ
「はれのひシンデレラ」放映

4月 創業者 桂 由美 急逝

8月 桂 由美 追悼ファッションショー開催



読売テレビ・日本テレビ系で放送されたドラマは、桂由美が急逝後、5月に地上波再放送とTVerでも再配信。



「お葬式ではなく、ショーで見送ってほしい」。生前の遺志を受け、帝国ホテルで開催されたショーのテーマは“Yumi-celebration of life-”。秋川雅史「千の風になって」、假屋崎省吾の花、富永愛らモデルがまとう100点のドレスが、珠玉のステージを彩った。



2025

60周年特別展
「Brilliant Future -次の章へ-」
表参道ヒルズにて開催

60周年を機に、YUMI KATSURAは“Life-Couture (ライフクチュール)”を掲げ、人生のハレの日を彩る新たな衣裳の創作に挑戦。表参道ヒルズの吹き抜け大階段を、ブランドの象徴であるウェディングドレスや、アニバーサリー、ハレの日のドレスが一気に埋め尽くし、圧巻のスケールで祝祭の空間を現出。本館地下3階「スペースオー」では、選ばれたオートクチュール約50点が来場者を魅了した。



守り続ける変わらない想い。
進化は続く、これからも。

For YUMI BRIDES

ひとりひとりの物語に、心が高鳴る美しさを。

Visit Us

YUMI KATSURA Official Links

<https://lit.link/yumikatsura>



YUMI KATSURA 東京

〒107-0062 東京都港区南青山 1-25-3

Tel: 03-3403-7831

YUMI KATSURA 大阪

〒541-0059 大阪市中央区博労町 3-5-1

御堂筋グランタワー 1F

Tel: 06-6245-1120
